10月

みんぱくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間　14 時 30 分から 15 時 30 分（予定）
■展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別！
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

3日（日曜日）
話者：川口幸也（文化資源研究センター准教授）
話題：【特別展関連】
彫刻家エル・アナツイが語るアフリカの歴史と行く末
場所：特別展示館

10日（日曜日）
話者：白川千尋（先端人類科学研究部准教授）
話題：特別な日の過ごし方
場所：オセアニア展示場

17日（日曜日）
話者：塚田誠之（先端人類科学研究部教授）
話題：【企画展「アジアの境界を越えて」関連】
境界を越えて――ベトナムの事例から
場所：企画展示場A

24日（日曜日）
話者：鈴木七美（先端人類科学研究部教授）
話題：北欧スウェーデンのウェルビーイングとケアの課題
場所：本館展示場内ナビひろば

31日（日曜日）
話者：信田敏宏（研究戦略センター准教授）
話題：母系社会に生きる女と男
場所：本館展示場内ナビひろば

「梅棹忠夫先生をしのぶ会」開催のお知らせ

日時：平成22年10月20日（水）午後1時30分～4時30分
場所：国立民族学博物館エントランスホール

さる7月3日に逝去された梅棹忠夫先生をしのぶ会を開催します。ご遺族のご希望もあり、多くの方が参列できる簡素な「しのぶ会」とし、式典は催さずに献花によって先生への思いをあらわすことといたします。湯茶のみにて飲食等は用意いたしません。また、ご供花・ご香典等はお断りさせていただきます。

当日は、梅棹忠夫先生が調査研究に赴かれた地域の展示場等に、先生のお写真を展示し、講堂とセミナー室では、民博創設以降の式典、ご講演や対談での先生のお姿を映像で映写する予定です。当日は休館日ですが、本館展示場をご覧いただけます。

なお、当日午後1時から5時まで、大阪モノレール「万博記念公園駅」と国立民族学博物館のあいだにシャトルバスを運行いたしますのでご利用ください。

（「梅棹忠夫先生をしのぶ会」実行委員長　田村克己）

編集後記

この夏に逝かれた梅棹さんの思いを振り返る特集を組むにあたり、梅棹さんの生き生きとした表情をとらえた写真を通して、民博の歴史をたどろうと考えた。しかし、そうした写真を探すのには結構苦労した。というのも、創設10周年、開館30周年などの節目には、他の文書資料とともに過去の記録写真の整理が進むが、中間期に定常的に整理・保存をおこなう体制がなかったからである。

今回、関係各部署や梅棹資料室と協力しながら、梅棹さんの姿をたどることとなったが、それは、民博に遅れてきた世代であるわたしにとって、民博創設前後のころの熱気や民博に対する期待の大きさを、あらためて知る機会であった。それと同時に、梅棹さんのことばの重みや学識、研究経営センス、そして今や喧（かしま）しい納税者への還元の視点など、その先見性をあらためて噛みしめる旅となった。もっともっといろいろなお話しを伺っておけばよかったのに、と今更ながら後悔の思いが深まるばかりである。合掌。（久保正敏）

次号の予告

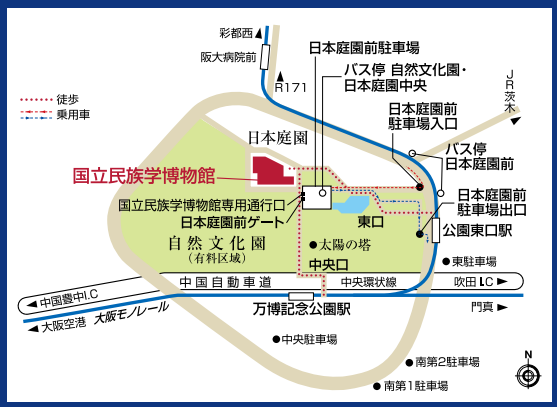
特集
考腹論

月刊みんぱく　2010 年 10 月号
第 34 巻第 10 号通巻第 397 号　2010 年 10 月 1 日発行

編集・発行　人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話　06-6876-2151

発行人　西尾哲夫
編集委員　久保正敏（編集長）　朝倉敏夫　樫永真佐夫
庄司博史　中牧弘允　山中由里子
編集アドバイザー　山内直樹
デザイン　宮谷一款
制作・協力　財団法人 千里文化財団
印刷　日本写真印刷株式会社

＊本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
＊本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内
●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください）。
●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

みんぱくホームページ
http://www.minpaku.ac.jp/